

## 第2学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 困っている友だちに 低学年2ー(3) 信頼・友情  
資料名 「くりのみ」 (大阪書籍)

### 2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、頑張っている友達を応援したり、困っている友達に優しい声をかけたりすることはできている。しかし、「他人より自分が大事」「自分さえよければ」という自己中心的な考えにもとづく行動が、児童達の生活ではよく見られる。また、自己中心的な判断基準で行動しているため、友達同士であっても争いが起きたり、何かのきっかけで仲たがいをしてしまったりすることがある。

そこで、相手の立場を理解できるようになるこの時期に、本主題を取り上げ、どんなときでも友達を大切にし、友達と仲よくすること、助け合うことの大切さに気付かせることは、友情を育てていくための大事な一歩となり意義深いと考える。

- 本主題は、「友達の気持ちを考え、仲よく助け合って友達を大切にすること」を主なねらいとしている。大切にすることは、友達の立場や気持ちを考え、思いやるということである。友達を大切にすることで、友達とのよりよい人間関係を築くことができるとともに、友達の大切さやあたたかさにも気付くことができる。しかし、現実には、自分の感情や都合を優先したり、自己中心的になり友達のことが見えなくなったりして、友達のことを大切にできない場合がある。

そこで、困っている人のことを考えて助け合っていくことのよさに気づき、自己中心的な心を乗り越えて、どんなときでも友達と仲よくし、助け合うことの大切さを考えることは大変意義深い。

- 本資料は、北風の吹く寒い森の中、腹ペこのきつねとうさぎが食料を探しに出かけるという話である。きつねは、どんぐりを独り占めしようと落ち葉で隠し、うさぎに何もなかったと言う。それに対し、うさぎは、やっと見つけた二つのくりの実のうちの一つを、きつねに分けてあげる。児童は、くりの実を手にしたきつねが、助けてもらったことにはっとさせられ、ぼろっと涙をこぼす行動から、友達の大切さについて考えることができる資料である。

本時指導にあたっては、きつねの気持ちに視点をあて、うさぎの優しさに触れて大きく心を揺さぶられるきつねの気持ちに共感させたい。導入では、児童自身も経験したことがあると思われる「友達と仲よく、助け合うことが大切だと思っているのに助け合うことができなかった」ことを思い出させ、本時のめあて「どんなときでも友だちを大切に、助け合おうとする心について考えよう。」へとつなぐ。展開1では、きつねの気持ちに視点をあてて考えさせる。その際、きつねとうさぎは友達であり、冬で食べ物がないという状況をしっかり押さえる。また、うさぎ役きつね役での役割演技を行い、きつねが腹ペこでつい独り占めしようとする心の弱さ、自己中心的な心にしっかり共感させる。さらに、うさぎの取った行動に共感させ、きつねの心情を考えさせる。また、うさぎの友情によって心が揺さぶれるよう、資料を2つに分けて提示する。展開2では、これまでの生活の中で、友達に優しくしてもらってうれしかったことを振り返り、価値を自覚できるようにする。終末では、日頃生活の中で友達と仲よく助け合っていたしている場面を紹介することによって、価値に対する意識の継続を図る。

### 3 本時のねらい

どんなときでも友だちを大切に、助け合おうとする心情を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第2学年〇組教室において

- 5 準備 紙芝居、掲示用挿絵、お面、道徳ノート、色紙で作った栗の実

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 アンケートの結果から、友達と仲よく助け合うことが大切だと思っているのに助け合うことができなかつたことを思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 友だちを大切にすることについて考えよう。</p> </div>	<p>○ 問題意識を持たせるためにアンケートの結果を提示する。</p>
展 開 1	<p>2 資料「くりのみ」を通して、きつねの気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) うさぎに「だめなんです。なんにも見つかりませんでした。」ときつねが答えた場面まで教師の範読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寒い冬 葉っぱも実も落ち、食べ物がなくなる。</li> <li>○ うさぎときつねは友達である。</li> <li>○ はらぺこで食べ物を探しにいくところである。</li> </ul> <p>(2) どんぐりをたくさん食べた後、残りを隠したきつねは、どんなことを思っていたか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これはぼくのものだ。</li> <li>○ やったあ。明日も食べられるぞ。</li> <li>○ 誰にも、わけたくない。</li> <li>○ 内緒にしておこう。</li> <li>○ うさぎさんにわかると、ぼくの分がへってしまふ。</li> </ul> <p>(3) うさぎが取り出したくりのみを見て、涙を流したときのきつねの気持ちを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>うさぎさんが出したくりのみを見ているうちに涙を流したきつねは、どんな気持ちだったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ うさぎさんごめんね。</li> <li>○ 2つしかないのにいいの。</li> <li>○ ありがとう。</li> <li>○ ぼくはいじわるなことをしたのに、うさぎさんは優しいな。</li> <li>○ 今度はぼくが分けてあげるからね。</li> </ul>	<p>○ 資料への関心を高め、内容をわかりやすくとらえさせるために、紙芝居で資料を提示する。</p> <p>○ 「きつね」の気持ちに共感させるために、紙芝居の挿絵や言葉のカードを提示する。</p> <p>○ ねらいとする価値に迫らせるためにきつねとうさぎが置かれている状況（寒い北風の頃、きつねとうさぎは友だち）をしっかりとおさえる。</p> <p>○ 提示した紙芝居の挿絵に戻って、寒い冬で食べ物もなくなり、はらぺこなきつねがとった行動であることを理解させ、きつねの思いに共感させる。</p> <p>○ 「だめなんです。なんにもみつかりませんでした。」のきつねの言葉に着目させて、自分のことだけで精一杯で、友だちのうさぎにさえ、渡したくない自己中心的なきつねの心情をとらえさせる。</p> <p>○ きつね役、うさぎ役で役割演技を行い、うさぎがしばらく考えていたことやしなびたくりのみを取り出し「やっと二つ見つけたので、一つさしあげましょう。」の言葉に着目させ、うさぎの行動に共感させ、涙を流したきつねの心情に迫らせる。</p> <p>○ 役割演技をした後、道徳ノートに書き、話し合う。</p> <p>○ 価値に迫らせるために意図的指名を行う。（反省→友だちを大切にすること）</p> <p>○ 助け合いに目を向けさせるために、その後、きつねがしたことを考えさせる。</p>
展 開 2	<p>3 自分の生活を振り返り、友だちに優しくしてもらってうれしかった経験を振り返り発表する。</p>	<p>○ 児童が自分の生活を想起できるように、道徳ノートに書かせる。</p> <p>○ 教師のインタビューにより価値付けをする。</p>
終 末	<p>4 日頃の生活の中で友だちと助け合っている場面を紹介する。</p>	<p>○ 身近にいる友だちと仲よく活動し、助け合うことの大切さを実感しようとする意識の継続を図る。</p>